

第 28 話：主要道県における青魚缶詰の生産動向

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第 1 話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第 2 話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第 3 話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第 4 話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第 5 話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第 6 話が「サバ缶レシピ本の出版動向」、第 7 話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第 8 話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」、第 9 話が「サバ缶ブーム下における青魚 3 魚種缶詰の販売金額の動向」、第 10 話が「サバ缶の調理方法別消費動向」、第 11 話が「サバ缶ブーム期におけるサバ缶の輸入を含む供給動向」、第 12 話が「マグロ缶ブームとサバ缶ブームの比較」、第 13 話が「小売店舗におけるサバ缶の販売状況」、第 14 話が「ポルトガルの水産缶詰事情」、第 15 話が「八戸市で開催された鯖サミット」、第 16 話が「水産高校とサバ缶詰」、第 17 話が「戦後における水産缶詰の生産量と輸出量の概要」、第 18 話が「戦後の我が国における主要水産缶詰の輸出量動向」、第 19 話が「戦後の日本人における水産缶詰の嗜好の変化」、第 20 話が「サバ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 21 話が「イワシ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 22 話が「サンマ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 23 話が「戦後における青魚 4 魚種による缶詰生産の連携」、第 24 話が「最近におけるサバ缶の販売動向」、第 25 話が「最近におけるイワシ缶の販売動向」、第 26 話が「最近におけるサンマ缶の販売動向」、第 27 話が「千葉県銚子市の水産缶詰の動向」についてお話をさせていただきました。第 28 話は、「主要道県における青魚缶詰の生産動向」についてです。

青魚缶詰の国内生産量は、輸出量が最も多かった 1980 年が 31 万トンのピークでしたが、1988 年以降輸出量の減少により、10 万トンを下回るようになり、2019 年が 5.8 万トンでした。青魚缶詰は、北は北海道から南は九州まで各地の缶詰工場で生産されています。

本稿では、1,000 トン以上の青魚缶詰を生産した実績を有する「主要道県」を対象に、青魚缶詰の生産動向について述べます。主要道県とは、北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、静岡県、鳥取県、島根県、長崎県の 11 道県です。表 1 の「主要道県における青魚缶詰生産量の推移」では、1980 年と 2000 年、2019 年の青魚缶詰生産量を示しました。

表 1. 主要道県における青魚缶詰生産量の推移

	単位:トン								
	1980年			2000年			2019年		
	サバ缶	イワシ缶	サンマ缶	サバ缶	イワシ缶	サンマ缶	サバ缶	イワシ缶	サンマ缶
北海道		25	2,601			3,248	296	3,548	1,501
青森県	69,598	11,679	961	11,077	777	406	22,310	348	277
岩手県	15,159	193	2,726	3,261	2,063	5,253	4,330	1,033	2,777
宮城県	5,585	63	24	22	6	163	4,996	524	470
福島県	11,567	5,016							
茨城県	24,351	2,273	37	5,806	7,862	124	5,165	748	127
千葉県	54,353	11,834	712	3,000	7,298	689	3,330	862	227
静岡県	1,522	4					50	163	
鳥取県	33,293	19,094		2,968	438				
島根県	18,709	13,422							
長崎県	1,699	3,465		2,964	1,458		3,891	544	

資料: 缶詰時報

まず、主要道県における青魚缶詰の魚種別生産量と輸出特性を述べます。

北海道は、1980年にはサバ缶とイワシ缶がほとんど生産されず、サンマ缶を2,601トン生産しました。その後も引き続き、主にサンマ缶を生産しています。

青森県は、主にサバ缶を生産しています。1980年にはサバ缶が69,598トン生産され、調理形態別にはトマト漬けが52%、水煮が33%を占め、これらの多くが輸出されました。

岩手県は、主にサバ缶とサンマ缶を生産しています。1980年にはサバ缶が15,159トン生産され、調理形態別には水煮が57%、油漬けが36%を占め、多くが輸出されました。

宮城県は、主にサバ缶を生産しています。1980年にはサバ缶が5,585トン生産され、調理形態別には油漬けが76%を占め、多くが輸出されました。

福島県は、1980年にはサバ缶とイワシ缶を生産しましたが、その後生産されなくなりました。1980年にはサバ缶が11,567トン生産され、調理形態別にはトマト漬けが94%を占め、多くが輸出されました。

茨城県は、主にサバ缶を生産しています。1980年にはサバ缶が24,351トン生産され、調理形態別には水煮が78%、トマト漬けが20%を占め、多くが輸出されました。

千葉県は、主にサバ缶とイワシ缶を生産しています。

静岡県は、1980年にはサバ缶を1,522トン生産しましたが、その後あまり生産しなくなりました。

鳥取県は、主にサバ缶とイワシ缶を生産しましたが、その後生産しなくなりました。1980年にはサバ缶を33,293トン生産し、調理形態別にはトマト漬けが82%、水煮が16%を占め、多くが輸出されました。

島根県は、主にサバ缶とイワシ缶を生産しましたが、その後生産しなくなりました。

長崎県は、主にサバ缶とイワシ缶を生産しています。1980年にはサバ缶が1,699トン生産され、調理形態別には水煮が58%、トマト漬けが42%を占め、多くが輸出されました。

上記の青魚缶詰の魚種別生産量と輸出の特性から、主要道県を2つのグループに区分しました。Aグループは、1980年には青魚缶詰生産量が多く、2019年も生産を継続(北海道、

青森県、岩手県、宮城県、茨城県、千葉県、長崎県の7県)。Bグループは、1980年には青魚缶詰生産量が多かったが、2019年にはほとんど生産を中止(福島県、静岡県、鳥取県、島根県の4県)。

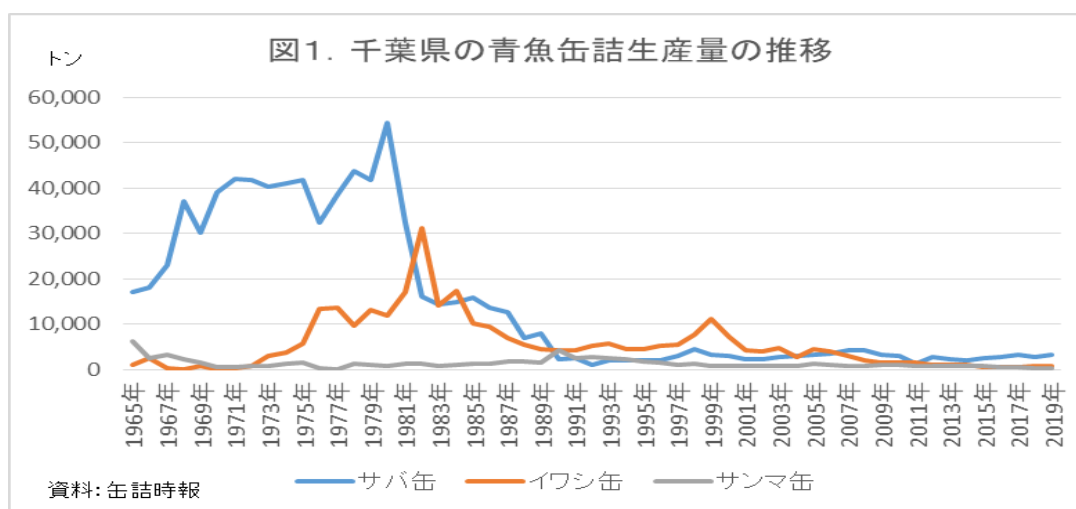
2つのグループごとに1県ずつを選択して、青魚缶詰の生産量と調理形態別生産動向を述べます。Aグループでは千葉県、Bグループでは島根県を選択しました。

1. 千葉県

図1に、「千葉県の青魚缶詰生産量の推移」を示しました。サバ缶は、輸出量が多かった1965年～1987年には生産量が1万～5万トンで推移し、1980年がピークの54,353トンでした。1980年の調理形態別内訳をみると、輸出が多い水煮が41%、トマト漬けが40%、油漬けが16%を占め、国内向けが多い味噌煮が2%、味付けが0.5%、その他が0.2%でした。その後、輸出量が大幅に減少したため、サバ缶生産量は1992年には1,055トンに減りましたが、その後増加して、2019年が3,330トンでした。2019年の内訳は、水煮が35%、油漬けが27%、味噌煮が18%、味付けが13%、その他が6%、トマト漬けが0.1%でした。2019年には油漬けのみが商業貿易により輸出されています。

イワシ缶は、1966年には2,600トン生産され、国内向けが多い味付けが51%、輸出向けが多いトマト漬けが44%を占めました。また、1976年～1985年にはマイワシ漁獲量の増加に伴い、イワシ缶が1万～3万トン生産され、1982年が31,111トンのピークでした。マイワシ漁獲量はその後一旦減少した後、現在は再び増加しており、2019年にはイワシ缶が862トン生産されました。

また、サンマ缶は、1965年がピークの6,000トンであり、その後1998年までは1,000トン以上生産される年が多かったですが、その後減少し、2019年が227トンでした。1965年の調理形態別内訳をみると、国内向けが多い味付けが42%、輸出向けが多いトマト漬けが10%を占めました。

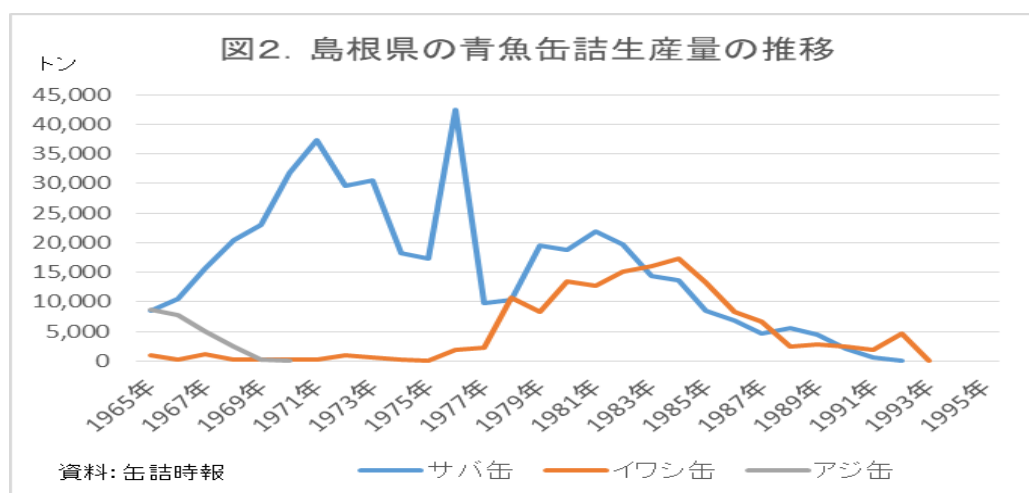


2. 島根県

図2に、「島根県の青魚缶詰生産量の推移」を示しました。サバ缶の生産量は、1965年が8,000トンであり、その後増加して、1976年がピークの42,000トンでした。1976年の調理形態別内訳をみると、輸出向けが多いトマト漬けが62%、水煮が39%でした。サバ缶生産量は、1977年～1984年には1万トンで推移しましたが、輸出量の激減により、1985年以降減少して1991年の707トンを最後に生産されなくなりました。

イワシ缶は1965年が1,000トンであり、1978年から1985年は1万トン台の年が多かったですが、その後減少し、1992年の4,650トンを最後に生産されなくなりました。1967年のイワシ缶の内訳をみると、輸出量が多いトマト漬けが79%を占めました。

また、アジ缶は、1965年が8,600トンであり、1969年の200トンを最後に生産されなくなりました。1965年のアジ缶の内訳は、トマト漬けが64%、その他が22%、味付けが14%でした。



上記2県以外に、北海道と宮城県について補足説明します。

北海道のサバ缶生産量は、1980年にはゼロでしたが、1966年～1975年には1万トン以上が生産され、1974年が28,000トンのピークでした。しかし、1976年以降、サバ漁獲量が激減したため、サバ缶生産量が減少しました。

また、宮城県では、2000年には、青魚缶詰生産量がわずか100トン程度であり、主にツナ缶（カツオ）が生産されていました。しかし、その後、カツオ漁獲量が減少したため、ツナ缶の代わりにサバ缶を生産するようになり、2019年にはサバ缶が4,996トン生産されました。

今回は、「サバ缶ブームが国内水産缶詰業者に与えた影響」についてご紹介します。引き続き、よろしくお願いいたします。